

八清親和会 自治会役員のひとり言

令和2年7月12日 No21

八清親和会 副会長 吉田祐治

“八清親和会を支えている会員の陰のボランティア！”

八清親和会は、多くの会員による行事や活動の担い手、お手伝いにより支えられていると思われがちだが、日ごろ役員・会員が気づかずに見過ごしているところにも、会員有志が目立たない、地道な活動のボランティアに支えられている。

今回紹介するのは、2つの目立たない地道なボランティアである。

その一つは、八清親和会館庭（昭和天満宮境内）の「草取り」である。

二つ目は、八清親和会館庭（昭和天満宮境内）の「梅の木の剪定」である。

最初の八清親和会館庭（昭和天満宮境内）の「草取り」は、会館近くの高齢の一会員の方が、平成29年から空いた時間に、一人で会館庭の草取りを行っている。初めは会館庭がきれいになっているのを見て、誰が行ってくれたのか分からなかったが、しばらくして会館ご近所の会員の方が行っているのが、分かったのである。

それまでは、5月の会館大掃除で会館周辺の草取りも行っていたが、すぐに生え、夏祭りの直前に改めて役員や関係者で草取りを行わなければならないと言うのが実状であった。

今年も、新型コロナウイルス感染拡大により、自治会活動の自粛や5月の会館大掃除も中止となり、夏草が生えているのではないかと思いきや、雑草どころか全く今までと変わらない清掃された庭になっている。今年も梅雨の合間に一人で草取りをしてきているためである。

感謝！感謝！である。

今では、この草取りのおかげで一年中、会館庭に雑草が生えているのを見たことがない。

このように、ご高齢の一会員の方が、皆に気付かれずとも、一人でコツコツと気が向いた時とは言え、春先や夏草の多い初夏の暑いときに、草取りをしているのを思い浮かべると頭の下がる思いである。

以前、たまたま会館にコピーに行った時、草取りを行っていた会員に偶然お会いすることができ、感謝と、またどのようなことから草取りを行っていただけになったか率直にお伺いしたところ、さりげなく「今までは、このような気持ちはなかったが、今の役員が八清親和会のために、一生懸命に働いてくれているのが分かるし、見えるから、自分自身でできることで協力しよう」という気になっただけだと、さらりと言われてしまった。そして、今は、イベント・サポート・スタッフとしても、夏祭りの山車の付き添いや、交通整理のお手伝いも担っていただいている。

二つ目の紹介は、同じく会館近くの高齢の一会員の方である。この方も毎年2月と3月にきれいな花を咲かせ、6月には大きな実が成る「梅の木」と「アズノ木」の枝の剪定をやはり時間を見つけに行っている。このおかげで毎年早春のきれいな梅の花やアズノの花を見ることができるのである。6月には、大きな梅の実やアズノの実が成り、梅落としアズノ落としを行い、梅酒・アズノ酒づくりや希望者に分けている。また、イベント・サポート・スタッフとしても、夏祭りに、神社関係のお手伝いも担っていただいている。

このような目立たないボランティア活動は、これだけではなく、青年部有志が毎月2回八清住宅地域の防犯防災パトロールを13年間続け、また、八清天親会有志による毎月末の八清親和会館庭、八清公園、八清ロータリーまでの公道のゴミ拾いを10年以上続けている。このように八清親和会は自治会のためだけではなく、地域のためにも目立たない、小人数による地道な多くのボランティア活動によっても支えられている。

したがって、役員も役員になったからには、会員のために地域のために一生懸命やろうと言うことになるのである。

本当に感謝！感謝！に尽きる。

思い起こすのは、サラリーマン時代の若いとき、上司から「会社を訪問した時、大きな会社、小

さな会社に関係なく、正門から建物の正面入り口まで歩きながらその庭を見れば、会わずとも、この会社がどのような会社かが分かる」と、言われたことは、強ち自治会にも当てはまると思っている。

さて、皆さんの自治会の会館・集会場の周りや庭は、どのような状態になっていますか。

自治会役員のひとり言です。

以上

下の写真は、7月12日の八清親和会館庭の今です。

